

支笏湖チップ 名古屋で泳ぐ

市など道物産展に初輸送



注目度抜群 来場者に千歳観光PR

支笏湖漁協と千歳市、千歳観光連盟は、名古屋市の百貨店、名古屋栄三越で行われている北海道物産展に、支笏湖特産のヒメマス(チップ)を生きたまま運んで展示している。新型コロナウイルス感染症拡大で名古屋市も緊急事態宣言の対象となり、例年の物産展に比べれば来場者は少ないが、道産のさまざまな名産品が並ぶ会場で、抜群の注目度という。(佐藤宏光)

支笏湖漁協など3者は近年、チップのブランド化に取り組んでおり、当初は6月に東京の日本橋三越本店での物産展で活魚展示を計画した。しかし、コロナ禍で物産展自体が中止に。その後、三越側から8月25日～9月6日の日程で名古屋で行われる物産展での展示を打診され、実施を決めた。輸送にあたっては、北大水産科学研究院の東条斉興助教やサケのふるさと千歳水族館の菊池基弘館長が助言。8月24日までに釣ったチップの成魚2匹を発泡スチロールの箱に1匹ずつ入れ、同日午後3時に漁協を出発。漁業者自身が夕方新千歳発の日本航空名古屋(中部)便で運んだ。現地の空港から会場まではレンタカーで1時間以上かかり、会場に着いたのは午後8時半。箱を開けると1匹は元気がなかったが、酸素と水温調節ですぐに元気を取り戻したという。

会場では、高さ約90センチ、幅約1.5メートル、奥行き約80センチの水槽に、稚魚20匹とともに展示。来場者の中には水槽の前で足を止め、担当者らに支笏湖やチップに関して熱心に質問する人が目立ったという。

8月30日にも新たに2匹を運んだ。市観光課の吉見章太郎課長は「活魚輸送が成功して、ノウハウやPR効果が確認できた。今後も、各地で実施してチップや支笏湖を知ってもらい、千歳に足を運んでもらえるよう、取り組みを続けたい」と話している。

名古屋栄三越の北海道物産展の会場で展示されるチップ(8月28日)(千歳市提供)